

粕谷和夫の観察日記。八王子・川町谷戸で3月の野鳥カウント時に田んぼの畔に咲いていた可憐な野草に出会いました。チューリップに近い仲間の野草でアマナといいます。球根植物でその球根が甘く食用にできることから「甘い菜」でアマナとなったと言われています。

# 紅葉台



# 新聞

第185号

2025年

6月7日

発行人：関谷 孝

## 八王子にのこる昭和の一部を歩く

粕谷和夫（八王子・日野カワセミ会）

私は昭和14年生まれで戦争中の空襲警報時に逃げ込んだ防空壕から恐る恐る覗き見たB29の襲来、戦後の貧しさからの復興、60年安保紛争、高度経済成長期の激しい自然破壊、その後の自然保護のうねりなど身をもって体験しました。ここでは八王子に残る昭和の面影の一部を歩いてみたい。昭和の始めに**大正天皇の墓地**、多摩御陵が造営されました。これを記念して甲州街道の追分から高尾間に植えられたのが**イチヨウ並木**です。黄葉時には歩道をゆっくり歩いて見て下さい。銀杏を拾うこともできます。この時に**京王御陵線**が参拝のために開通しました。先の戦局の悪化に伴い不要不急線として1945年に休止。御陵線の面影を残す痕跡として、長房団地近くの住宅街に橋脚がひっそりとたたずんでいます。京王山田駅から廃線跡を歩いてみるのがお勧めです。

甲州街道の多摩御陵（武蔵陵）入口付近（東浅川の甲州街道旧道入口辺り）に**オリンピックのモニュメント**があります。戦後復興の表徴として開催された1964年東京オリンピックで浅川地区が**自転車競技のロードレース・コース**となりました。直ぐ近くの陵南公園の事務所前には**優勝者の名前を刻んだ記念プレート**もあります。これ等のオリンピック遺産と陵南公園、その隣の多摩御陵を結んだ散策コースもお勧めです。

裏高尾、新井地区にある中央線の「いのはなトンネル」付近には戦中の米軍による**列車銃撃の遭難者慰霊の碑**、ここから荒井梅林の北側に出て戦後の経済成長を支える**中央高速道沿いの道**は静かな散策コースです。

滝山丘陵の北側、高月には東京都で最大規模の田んぼがあり、**高月清流米**が生産されています。ここに昭和30年代までは水車があり、農家が米の粃摺りなどに利用していましたが、農村電化の進展により水車がなくなり、**水車跡**が残っています。ここに水車が復元され、市内から訪れた市民が地元産の玄米を購入して水車で精米、精米中の待ち時間に高月の田んぼや近くの秋川、多摩川などを散策しできるようになることを夢んでいます。この絵はそれを想像して知人に描いたもらったものです。



## 粕谷和夫の観察日記

満開の**トサミズキの花**の下の**カルガモ**です。場所は立川市の根川緑道です。トサミズキは土佐が原産の野生種ですが、江戸時代から観賞用に栽培されていて、今では庭園樹や公園樹として高い人気がある植木です。生け花や切り花、盆栽としても親しまれています。根川緑道に

はトサミズキが多かったです。これより黄色が濃いマンサクも数本開花、アクセントになっていました。



2月28日に栃谷戸公園の**シロハラ**をこの新聞で紹介しました。この時の写真はうす暗いところでシロハラが落ち葉をひっくり返して餌をとって

いるシーンであまりクリアーではありませんでした。こちらは3月20日に狭山丘陵の野山北・六道山で出会ったシロハラで明るい湿地に出てきたものです。2枚の写真は同じ個体です。



3月20日の山北・六道山公園で出会った**ウグイスカグラ（鶯神楽舞）**のアップです。名前はウグイスが囀り始める早春にこの木が花を咲かせることに由来するという説があります。この日も狭山丘陵でさえずるホーホケキョを聞きながらこの写真を撮りました。この花が初夏になると赤く熟す楕円形

の小さな果実となります。この果実がグミと呼ばれ子供の頃よく食べたことが思い出されます。



八高線の箱根ヶ崎駅の近くにある「さやま花多来里の郷」は、約20万株のカタクリが咲き誇る都内随一の群生地」とのうたい文句がHPにあったので、3月26日に行ってみました。この日は風が吹き荒れていて、黄砂と杉花粉が飛び交い、揺れ動くカタクリの花の写真を撮るのに苦労しました。カタクリの群生は狭

山丘陵の西端の北側の斜面にあり、清楚な白花も1輪だけ咲いていました。

## 城山カタクリの里 自然が織りなす風景は圧巻

開園時間午前9時～午後5時 入園料500円

南関東最大級のカタクリの群生地が相模原市緑区にあります。個人所有の敷地内にあり3月下旬から4月上旬には約30万株ものカタクリが約3,000平方メートルの斜面を埋め尽くします「**かながわの花の名所100選**」にも選定。紫色で染まる群落のなかで、ポツンと静かに花を咲かせていたのはシロバナカタクリ。数万本に1本という確率でしかお目にかかることが出来ない貴重なカタクリとのこと。これから4月上旬はキバナカタクリの季節。紫のカタクリは日本原産。キバナカタクリは外来種です。ここは山野草の宝庫でもあります。雪割草・ショウジョウバカマ、福寿草、キクザキイチゲ、アズマイチゲなどの野草で埋め尽くされます。(注：期間限定)

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。